

# 「元気が一番」塾

2007.9.15 仲島 正教

## 1. 人権教育のための世界プログラム。

「人権教育のための国連10年」(1995～2004)→人権教育のための世界プログラム(2005～)

学力向上と人権教育の推進は別個の問題ではない。それが絡み合って子どもは育っていく。

そんな「人権教育学校」をつくる

P D C A サイクルの構築 計画(plan)実施(do)評価(check)改善方策(action)

## 2. 人権教育とは、生きる基盤になるもの。

- ・人権教育とは、人間が幸せに生きるためのもの。
- ・人権を学ぶとは、人と人のつながりの温かさを感じる。そこには笑顔が生まれる。
- ・学校教育＝人権教育、学級づくり＝人権教育、子育て＝人権教育、人生＝人権教育。

## 3. 人権教育をどう語るか、人任せではだめ、自分が語ること。

- ・簡単なことを難しく言うのは大学の教授。難しいことを簡単に言うのが学校の先生。  
難しいことをどれだけかみ砕いてわかりやすく話すかが大事。自分の言葉で話すのが一番！
- ・学級の子どもの話をする。人と人のつながりの豊かな例、感動の例を紹介する。
- ・優しいという漢字、差別の冰山、ジョハリの4つの心の窓、4つの人権教育の内容、  
人権教育丸の出航、→→これならわかりやすい、というものを自分で探す。

## 4. 話さなくても勉強しておきたい「同和教育」や「人権教育」のこと

- ・同和教育の歴史 ・水平社宣言(人の世に熱あれ、人間に光あれ) ・西光万吉
- ・同和の法律(同和対策事業特別措置法1969～、地域改善対策特別措置法1982～  
地域改善対策特定事業にかかる国の財政上の特別措置に関する法律 1987～2002.3 失効)
- ・解放学級 ・狭山事件 ・識字学級 ・同推教員 ・全同教 ・同和地区 ・部落史の見直し
- ・逆差別 ・寝た子を起こすな ・差別のばらまき ・部抜き差ぬき ・解放同盟 ・全解連

## 5. 人権教育と同和教育は違うのか、同じなのか？

- ・「同和教育から人権教育に」ではなく「同和教育を人権教育に」
- ・「部落差別の解消を基盤」から「人権尊重を基盤に」へ
- ・同和問題は解決していない→だから人権教育で進める
- ・アサーティブネス(非攻撃的自己主張)の進め方を
- ・参加型学習だけでは変わらない。不易流行、温故知新

## 6. 人権教育と道徳教育の違いは？

- ・違いをみつけることが大事なのか、同じところをみつけることが大事なのか？
- ・人権教育と道徳教育の同時達成 人権教育も道徳教育も人間が幸せになるためにある

## 7. なぜ私は、この教育に一生懸命になったのか？ ノリキのため 勇治のため チェシルのため